

シニア専修コース
けやき便り

第7号

編集発行

園田学園女子大学

シニア専修コース

「けやき便り」編集クラブ



5号館（開学30周年記念館）を仰ぎ見て

けやき写真倶楽部の名前は園田学園の象徴「けやきアベニュー」から誕生

けやき並木で緑に覆われた学園内を歩く女子大生を見ると青春そのもの

専修コースの我々も青春時代を思い出しながら学園生活を謳歌できる雰囲気

習いたい教えて欲しい気持ちは青春そのもので態度は謙虚そのもの

一步一步進めば創作活動の楽しさが見いだせます。

文・写真 文学歴史学科1年

木村 勲

国際文化学科交友会新入生歓迎会を開催

日時：5月21日 場所：チャティー

国際文化学科3年 中村 米三郎
交友会について

4月20日（金）、国際文化学科交友会は、今年の入学式のあとで河合教授の出席をお願いして、交友会オリエンテーションを行いました。改めて総合生涯学習センター所長の福嶋教授、河合教授、センター職員の榊井様を来賓としてお迎えして新入生歓迎会を行いました。

参加者は、来賓 3名、研究生 7名、2、3年 11名、新入生 14名の35名です。



お祝いの言葉を述べられる福嶋所長



挨拶をされる河合教授



新入生の皆様方

国際文化学科は、1年、2年、3年そして国際文化学科OBを会員とする学業・親睦を図る目的で交友会を組織していますが、下記の文章は「交友会」について、4月20日の交友会オリエンテーションで配布した資料です。

皆さんは、さまざまな思いを抱いて、本学の専修コースにご入学されたことと思います。後半の人生をどう生きるかは、中高年の誰しも直面する課題ですが、大学での学びを選んだということは、そこに自身の思いを実現させてくれる何かがあるという期待があつてのことでしょう。単なる好奇心からかもしれないし、若い頃実現できなかったキャンパス・ライフを味わってみたいというだけの理由かもしれません。けれども、与えてもらうことを期待するだけでは、多くは望めません。大学は、知識を得るだけでなく学び方を学ぶ場所でもありますから、自ら主体的にかかわってこそ、知的な楽しみも増すものです。

交友会は、そうした皆さんの活動をより豊かなものにするために設けられました。交友会活動を通してお互いに交歓することで、より豊かで充実したキャンパス・ライフを享受していただければと願っています。

活動内容

1. 交友会の会員

国際文化学科に所属する受講生およびOBは、交友会の会員として自動的に登録される。ただし、活動内容を拘束するものではない。

2. 交友会は各学年から選出された役員が主催する。

3. 上記の目的を達成するために、学外活動、学内活動を行う。

学外活動…国際文化の知識および教養を深めるための施設の見学等

学内活動…会員間の情報交換および親睦を深めるための懇親会等

以上、趣旨をよくご理解いただき、積極的なご参加をお願いします。

以上

6月18日文歴懇親会・新入生歓迎会実施

文学歴史学科 3年 木下 俊造

13時過ぎから講義の終わった上級生メンバーが集合。14時には3限・4限講義のある人を除いたメンバーも揃い、その中にはありがたいことに受講日でないのに来られた方もおられ、14時過ぎには抽選によって新入生以外の席が決まり、3限終了後新入生も続々と集合し席も決定。15時からの新入生歓迎会には総合生涯学習センターより福嶋所長、榊井課長にも出席をいただき大きな拍手とともに開会されました。

最初にご挨拶いただきました福嶋所長からは、シニア専修コースに対する情熱と力強い決意をお話しいただき、参加者全員一言一句聞き逃すまいと耳を傾けていました。

乾杯後の歓談では大学生協さんの心のこもった料理と飲み物で話も大いに弾み、初対面の方が多かったのにも関わらず、気がつけばあっという間に1時間を経過し中締めめの時間となり、その後は時間の許す方々で約30分の歓談を経て17時前に解散となりました。

初めは講義の無い方も来てもらえるのか、話が盛り上がるのか不安一杯でしたが、多数(新入生20名を含め44名)の参加をいただき無事終了できたようで、今後もこのような機会が持てれば、今回参加できなかった人たちも含めもっともっと大きな輪になっていくのではと思います。

またお忙しい中貴重な時間を割いてご出席いただきました福嶋所長と榊井課長には、貴重なお話だけでなく参加メンバーの話も聞いていただき誠にありがとうございました。(以上)

この度は3年生主催で「文歴懇親会」に1年生が参加させていただき各テーブルに居られる3年生の諸先輩方にいろいろアドバイスや楽しいお話を伺うことが出来、ビールやバラエティに富んだ食べ物を頂きながら歓談出来ましたことは1年生にとりましてこれからの3年間の過ごし方を教わったように思い大変刺激

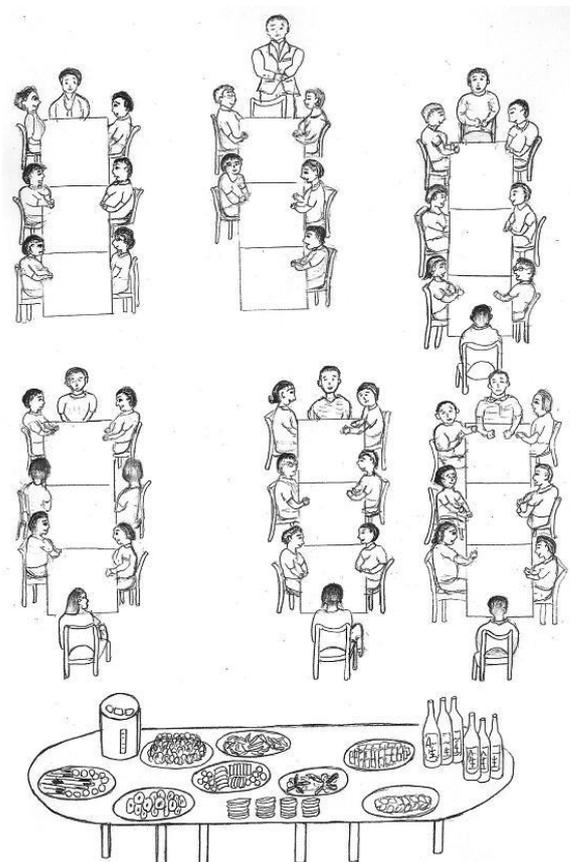
的で有意義な時間であったと心より御礼を申し上げます。

どうぞこれに懲りずまたの機会がございましたら1年生も参加させていただきたく・・・お声をかけてくださったら有難いことです。お世話下さった皆々様に心より感謝申し上げます。有難うございました。(1年 R. I)

「文歴懇親会・新入生歓迎会」に新入生の1人として参加しました。諸先輩とのテーブルをはさんでの歓談・飲食は、サラリーマン時代を思い出しました。また、諸先輩は仲間意識が高く結束が強く見られ、うらやましく感じたのは小生1人だけではないでしょう。新入生も見習うべきではないでしょうか。新入生31名全員出席できていないのが少し残念か。

今回のような会は、もっと有っていいと思います。またの機会を楽しみにしています。お世話下さった皆様には、感謝致します。有難うございました。(1年 H. H)

チャティーでの懇親会イメージ



大江教授「日本史学Ⅰ」学外授業

京都国立博物館「大出雲展」 & 方広寺・豊国神社・耳塚

平成24年8月1日



出雲大社をはじめ島根県の文化財を通じて「神々の国、出雲」を紹介



豊国神社

豊臣秀吉が祀られている神社



京都国立博物館



大江先生の説明に聞き入る皆さん



耳塚（鼻塚）

豊国神社のすぐそば



方広寺の梵鐘

「国家安泰、君臣豊楽」と書かれた大梵鐘に徳川家康が因縁を付け大坂（冬、夏）の陣の原因になったという話はよく知られている

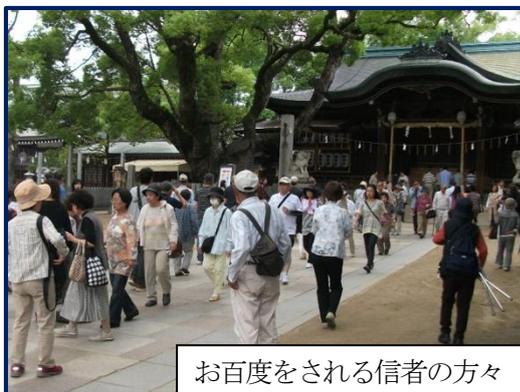
河合教授「国際文化演習1、2」合同学外授業
 神さぶる山「生駒」をフィールドワーク

「難波門こぎ出でみれば神さぶる生駒高嶺に雲ぞたなびく」万葉集（巻20・防人歌）

「国際文化演習1、2」合同で、6月10日（日）に神さぶる山「生駒」（石切神社、生駒聖天宝山寺）をフィールドワークしてきました。

参加者は、河合教授、「演習2」受講生4名、「演習1」受講生4名の計9名です。

1. 9時30分近鉄けいはんな線新石切駅に集合
2. 石切神社、参道を自由にフィールドワーク



お百度をされる信者の方々



石切神社参道を行く



参道にある漬物横丁で休憩

3. 近鉄石切駅に集合して、生駒駅に移動
4. 生駒ケーブルで宝山寺駅に移動

5. 参道にある摩波楽茶屋(バリ島料理)で昼食



6. 生駒聖天宝山寺を寺の担当者に案内されてフィールドワーク



生駒聖天で担当者の説明を受ける



永代供養料1億円の石柱



重要文化財「獅子閣」にて記念撮影

7. 16時30分近鉄生駒駅で解散
 現世利益で人気絶大なる石切神社、生駒聖天宝山寺の存在感は圧倒的であった。

国際文化学科3年 中村 米三郎

シニア専修コース国際文化学科特別セミナー

「国際協力を考える」を開催

国際文化学科クラス委員会

1. 特別セミナー開催の経緯

河合教授から、国際文化学科クラス委員会は、独立行政法人国際協力機構 JICA に世界情勢を説明して頂くようなセミナーを開くように提案を受ける。

クラス委員会は、園田学園女子大学の卒業生で公益社団法人青年海外協力協会にお勤めの山内章代様に相談をして具体案を作成する。

2. 特別セミナーの目的

国際協力により「お互いの価値観・生活様式・文化を尊重し、直接ふれあい、交流しながら、貧困問題、環境問題などその国の社会の抱える問題に取り組み、経済や社会の発展に貢献すること」を考える場を提供する。

3. 講演者の決定

2002年～04年、05年～07年の2回、日系社会シニア・ボランティアとしてブラジルに派遣され、09年～11年、シニア海外ボランティアとしてベトナムのハノイに派遣された住田育子様を講師をお願いする。

4. 特別セミナーのプログラム

- (1) 日 時：7月23日(月)13時～14時30分
- (2) 場 所：321号室(AVホール)
- (3) 参加費：無 料
- (4) 対象者：シニア専修コースと公開講座の受講生であればどなたでも参加できます。
- (5) 特別セミナープログラム
 - ① 講 演 「文化人類学と国際協力」
教授 河合 利光
 - ② シニア海外ボランティアDVD上映 「世界も、自分も、変えるシゴト」
 - ③ シニア海外ボランティア事業趣旨・概要説明
公益社団法人青年海外協力協会
山内 章代
 - ④ 体験発表「海外で日本語教育を行う」
シニア海外ボランティア経験者
住田 育子

5. 特別セミナー講演者



講演される河合教授



説明される山内様



講演される住田様

6. 住田育子様講演趣旨

私はベトナムでは、地元の先生方に「日本語の教え方」や「日本文化」を指導しながら、学生たちには「日本語」「日本文学」「日本のビジネスマナー」などを教えていました。いつも外国に滞在したら、地元の人が普通に食べているものにはできるだけチャレンジすることにしていきますが、ベトナム北部の名物は犬肉料理。その時感じた私の気持ちは……。そんな中、ベトナムでのボランティア生活では沢山のことを経験しましたが、思わぬ出来事でも全てひっくるめて、ベトナムが好きになったのだから、やはり住んでみないとわからないことが多い国だったなど、その時のベトナム人との触れ合いや出来事などの体験を語られました。

7. 受講者数 50名

特別セミナーを受講して頂きました皆様、有難うございました。

学外授業「リトルワールド」

見学に参加して

国際文化学科1年 川上 恵子

秋めいた風が、やっと感じられ始めた10月6日(土)、河合先生、河合先生ご子息(国立民族学博物館勤務)、ご子息の友人女性(中国人、伊藤忠商事広州支社勤務)、研究生1名に1年生から3年生までの24名の計28名が、学園バスで曇り空のもと出発しました。

バスが走り出すとすぐに東南の空に広く広がる灰色の縹雲を見つけました。珍しくて心弾ませながら車窓に目をやると、真赤な彼岸花が目飛び込んできました。萩の花は静かに揺れ、天空に地上に小さな秋を見つけて、愉しみながら走り続けること3時間。渋滞などの諸事情もあって1時間近くの遅れで12時10分頃到着しました。このためボランティアガイドによる本館見学はカットされました。



皆、お腹を空かしながらも河合先生の熱心な講義に耳を傾けて、沖縄、

台湾、インドネシア、バリ島、ミクロネシア等の人々の暮らし、衣、食、住を見て廻りました。ポリネシアのサモア近くの池のところで解散し、食事を含めての自由行動へ移った時はもう1時を過ぎていました。私たちグループはまずドイツ館へ行って喉を潤すことにしました。

私はドイツビールの代表格レーベンブロイの生ビールとニュルンベルグのソーセージを注文しました。ニュルンベルグのソーセージはドイツで一番美味しいとされています。これはずすわけにはいけません。

暑くて汗をかいて歩いた後でしたから、一気に飲みしそうな勢いでした。ビール(小)を注文した私たち女性3人、「大にしとけば良かった〜ちょっと足りない感じ」と話していたところに、河合先生が山盛りのソーセージを持ってこられました。思わず「わあ〜、ソーセージ、たくさんですね〜」と思わず出た言葉に先生が一口ずつ切って下さいました。先生の“優しさ”を美味しくいただきました。

次に目指したのは、可愛いとんがり帽子の屋根の連なるアルベロベッコです。アルベロベッコとは、部屋が一つ、屋根が一つの意味で世界遺産として登録されています。ここでマークしていたのは、パンツェロッチェ(揚げピザ)です。定員さんは一人しかいなくてジェラートの行列をさばくので手一杯のようで、これでは国際文化亭一押しのアフリカプラザのワニの串刺しにたどりつけそうにありません。諦めてアフリカプラザへと急ぎました。

坂道の辺りまでくると、香ばしく焼き上がってくる臭いが漂ってきました。ワニの串刺しとダチョウの串刺し!下手物食いの私は、実は一番これを期待していました。南アフリカの白ワインとマリアージュしてとを考えていたのですが、ワインは置いていないと言われてがっかりしました。しかたないので、ケニアのタスカールビールを注文しました。さっぱりとキレのある飲み口でした。

<ワニの串刺し>と初めて聞いた時には「ワニ!?

え〜、どんな味かしら?」と。一番に頭に浮かんだのは沼地をのっ



さのっさと独特の歩き方をしているワニの姿とその甲羅の皮のうろこの模様と高かったクロコダイルのハンドバッグでした。

目の前に出てきたワニの串刺しは全く見た目は白身のお魚のようで、食べてみますと鶏のササミよりもあっさりとした淡白なお味で、これがあのグロテスクなワニのお肉とはとても思えませんでした。味付けは塩、コショウのみで旨みそのまま味わえるようにしてありましたが、一味を振ったら一段と美味しくなると思いました。

ダチョウのお肉は、イノシシのお肉に似ていましたが、こちらも塩、コショウの味付けでしたが、オレンジソースを少々かけて焼くともっと美味しくなると思いましたが、「ワニのお肉とは」「ダチョウのお肉とは」と判るようにシンプルにしてあるのだと思います。ともあれ、下手物食いの私、両方とも「あり」のお味でした。

アフリカプラザ前からバスに乗って最後の目的地ミュージアムショップへと参りました。世界の民芸品の中からお土産を選ぼうといろいろ見て廻りましたが、適当なものが見つからなく



て、最後に手にしていたのはオランダ産のクラッカー（トーストチップスガーリック）でした。ワイン好きの私は、これにチーズやハム、オリーブの実、キュウリ、トマトなどトッピングして食べましたが、とても美味しかったです。もちろんそのままでもラスクとして、美味しくいただけました。

これは全てあくまでも私の味覚です。食べることばかり書きましたが、“食は文化”です。

最後に入館ゲート前で集合写真を撮って3時50分に出発、帰路に着きました。思い出作りに民族衣装を着て、写真を撮りたかったのですが時間がなくて残念でした。

世界の種々の民族が気候・風土・風習に合わせた家を作って暮らしていた当時の生活・文化を<観て、食べて、触れて>、副産物ですが親睦も計れて、かけ足でしたが、有意義な楽しい学外授業でした。

引率して下さった河合先生、お世話して下さいました役員の皆様ありがとうございました。



園田学園女子大学シニア専修コース
平成24年10月6日
国際文化科学外授業「リトルワールド」参加記念

「橘 嘉智子」(檀林皇后)の魅力をさぐる
 ——「日本文学I」を学んで——

文学歴史学科 3年 遠藤 明

○はじめに

「橘 嘉智子」という女性(延暦5~嘉祥3(786~850))。この人の時代には、平安京遷都(794)があり、坂上田村麻呂が征夷大將軍に任じ(797)られ、藤原北家の台頭と他家の排斥(816)が行われ、遣唐使、大宰府より出発(838)(事実上最後の遣唐使)、承和の変(842)などが繰り返されています。

同じころ、藤原継縄らによる『続日本紀』(797)や『凌雲集』(814)、さらに『文化秀麗集』(818)や『経国集』(827)、さらに、『日本後記』(840)などが編纂されています。そして、橘氏の子弟のための大学別曹学館院(840)(檀林皇后ら)が設けられています。このような点から推察しますと、彼女は、時代の荒波を超えて来られた当時においては、なかなか強くて、しっかりしていて、人気のある女性だったように感じられます。

いったい、どんな人なのだろう、どのような魅力を持ち合わせておられたのだろうと思いつつ、何となく、少し興味を持ちました。そこで、7月30日(月)京都市右京区嵯峨野にあります「檀林寺」に出掛けました。ちょうど「祇王寺」(祇王、祇女とその母及び仏御前が隠棲した往生院の跡地)の手前にあります。連日晴天続きでして、当日は、京都は、37°Cという猛暑でした。ソフトクリームが、格別、おいしく感じられました。



(上掲写真、檀林寺正門)

では、その「橘 嘉智子」の魅力を見つめてみましょう。

1. 「橘」氏を賜る

「橘 嘉智子」の「橘」という姓は、飛鳥時代末、県 犬養三千代が、元明天皇から「橘宿祢(たちばなすくね)」の氏姓を賜ったことに始まるそうです。その子どもの葛城王が「橘諸兄」へ改名した後、諸兄の子孫は、「橘氏」を名乗るようになったと言います。

「橘諸兄」は、初めて「橘宿祢」の姓を受け、その後、橘朝臣の姓を賜与(目下の者に与える)されたというわけです。

「橘 嘉智子」は、橘諸兄→橘 奈良麻呂→橘 清友→橘 逸勢・安子・嘉智子・?との系図から、橘 奈良麻呂の孫、清友の子、母は、田口氏の女、仁明天皇・正子内親王(淳和天皇の皇后)の母と言います。そして、加美能親王の妃となり、夫が即位(嵯峨天皇)した後、弘仁6年(816)皇后に立てられたというのです。

元来、「皇妃」と呼べるのは、「皇后・妃・夫人・ひめ 嬪・女御・更衣」等だそうです。

「^{たちばな}橘 ^{かちこ}嘉智子」は、「第52代嵯峨天皇が寵愛していた女性」の中でも、ひときわ目立っていたのでしょうか。

それに、桓武天皇の皇女の高津内親王が、妃を廃された後、姻戚である藤原冬嗣（^{いんせき}橘 ^{ふじわらふゆつぐ}嘉智子の姉、安子は、冬嗣夫人、美都子の弟、三守の妻だった）らの後押しで立后したと言われています。

ですから、「^{たちばな}橘 ^{かちこ}嘉智子」は、一生懸命、自分の家系を築き上げようとし、さらに、自分たちの一族の繁栄を一層願っていたのでしょうか。自分の願いをもとに積極的に行動し、幅広い触れ合いを求めて活躍していたように思われます。

2. 寛和で、容姿美麗

『増鏡』の伝えるところ、『嵯峨天皇は、延暦18年2月、14歳で元服。皇子は、今日知りうるのは、50人、寵愛した女性が、29人だけ。添臥に迎えた女性はだれであったかしのないが、やがて、橘清友（^{たちばなならまる}橘 奈良麻呂の次男）の娘^{かちこ}嘉智子（父＝清友、母＝田口氏）、多治比氏守の娘高子（父＝多治比氏守、母＝未詳）、山口王の娘交野女王（父＝山口王、母＝未詳）らを愛した。これらの多くの女性の中でも^{かちこ}嘉智子は、美人だったので、とくにときめかしていた。』とあります。（「歴代天皇と皇妃たち」横尾豊著 柏書房 1987）

とにかく、「^{たちばな}橘 ^{かちこ}嘉智子」は、「容姿が美しく」人々の注目するところだったそうです。それに、「性格は、寛和で」あったと言います。ですから、美人で、心根がやさしいと言いますから、多くの人々の羨望の的であったようです。（後に掲げる『後撰和歌集』巻十五 嵯峨后 参照）

3. 仏教を深く信仰する

「皇后は、容姿が美しく、^{ふとく}婦徳にひいで、また学芸を愛された。皇后は、橘氏の学校として^{れんげ}蓮華^{しょうじゃ}精舎を設けた。そして、深く仏教を信仰し、嵯峨の地に壮大な寺院を営んだ。これが、檀林寺である。檀林寺は、官営寺院となり、その^{たっちゅう}塔頭としては、^{しょうこんごういん}正金剛院をはじめ十二坊を数えたと言われる。」と（京都市観光局 駒札（立札の一部））に記されています。

また、「^{たちばな}橘 ^{かちこ}嘉智子」皇后は、「^{あつ}仏法を篤く^{うやま}敬い、唐の禅僧^{ぎくう}義空を招いて檀林寺を建立し、多くの^{ほうばん}宝幡や^{ししゅう}刺繍の^{けさ}袈裟を作り、唐の^{ごたいさん}五台山等の諸寺に収めた。」と言われています。

「檀林寺」こそは、「平安初期の仏教と文化の中心」だったようです。「皇后のおくり名（生前の徳や行いに基づいて死者に贈る称号）を檀林皇后」と言われています。

もともと「檀林」とは、学問書の意味だそうです。

さらに、「兄の^{うじきみ}橘氏公と共に、橘氏一族の子弟の教育のための学館院を設けている」と言われ、そして、「嵯峨天皇の^{じてい}治定とあいまって、理想的な皇后として知られる。」（歴代天皇 皇后総覧 別冊歴史読本 2006 第36巻第7号 新人物往来社）と述べられています。

4. 「嵯峨后」としてのかがやき

嵯峨后として、『後撰和歌集』に入集されている二首のうちの一首を、読んでみましょう。

く まだ后になりたまはざりける時、かたはらの女御たちそねみたまふ^{けしき}気色なりける時、みかど御曹司にし^たのびて^よ立ち寄りたまへりけるに、御^{たいめん}対面はなくて、^{たてまつ}奉れたまひける、
「事しげししばしば立てれ宵の間に置けらん^{つゆ}露は出でて^い払はん（1080） 嵯峨后」

—歌意—

「あまり早くお出まし遊ばすと、噂の種になり過ぎます。今しばらくは、入らないで外に立つたままでいらっしゃってください。宵の間に置くであります露は、私が外へ出てお払い申しあげますから。」(『後撰和歌集』)
 = 「多くの女御のお妬^{ねた}みが多うございます。しばらくは中に入らずたたずんでお待ちください宵の間に会えない御不満、一積もった露は、一やがて私が、お払いいたしましょうから。」

(『俊頼髓函』嵯峨后嘉智子) >

「補注」

◇事しげし(「言繁し」一口やかましい。噂の種になる。

◇出でて払はん—皆が寝静まったあとなら、私からお出迎えしますから・・・という気持ちをこのように表現したのである。

◇立てれ—立っていてください。

◇おけらむ露—置いているであろう露。

「補記」立后する以前、女御たちが嫉妬して^{うるさ}煩く噂することを嫌い、嵯峨天皇のお忍びの訪問を謝絶した際の歌。

この歌から、「橘^{たちばな} 嘉智子^{かちこ}」がときめかしていたということが、察せられましょう。

5. 「橘^{たちばな} 嘉智子^{かちこ}」の宗教観を示す伝説

「檀林寺」発行のパンフレットによりますと、「橘^{たちばな} 嘉智子^{かちこ}」には、次のような伝説があるそうです。

「嘉智子太皇太后は、鳥や獣の餌に供するため、また、自身の宗教観を示し、人々の物心を呼び起こすため、自らの遺体を埋葬せず、放置し、^{ふうそう}風葬するよう命じ、さらに、朽ちて白骨化するまでの過程を、絵師に描かせた」とあります。

六波羅蜜寺の北にある西福寺で、お盆の時期に、この「檀林皇后九相図」という地獄絵が公開されているそうです。

^{ふうそう}風葬されたというのは俗説ですが、皇后の遺言で薄葬されたのは、確かのようにです。

もともと、「九相(想)図」というのは、「屋外にうち捨てられた死体が朽ちていく経過を九段階に分けて描いた仏教絵画」と言われています。

例えば、^{ちようそう}張相—死体が腐敗によるガスの発生で内部から^{えそう}膨張する。壊相—皮膚が^{けちずそう}破れ壊れ始める。^{のうらんそう}血塗相—血液・体液などが体外に^{にじ}滲み出す。^{のうらんそう}膿爛相—腐敗により溶解する。^{たんそう}青瘀相—青黒くなる。^{さんそう}噉相—虫が^{こっそう}わき、鳥獣に食い荒らされる。^{しょうおそう}散相—部位が散乱する。^{しょうおそう}骨相—骨だけになる。^{しょうそう}焼相—灰だけになるなどです。

ですから、そこには、その人自身の宗教観が現れていると言えましょう。

○ おわりに

このように見てきますと、「橘^{たちばな} 嘉智子^{かちこ}」という人は、美人で聡明、仏教を篤く敬う信仰心、行動力のすごさ、多方面にわたって築かれた願望の気高さ、素晴らしさ、子弟の将来にかける希望、期待、そして、優しさ、等がしのべれます。



御本尊、檀林皇后を型どった容姿端麗な^{じゅんち}准胝仏母尊(藤原時代)

(終わり)

けやき写真倶楽部発足する…「つながり」を楽しむ元気な仲間

7月6日(金)、「学園生活で多くの人と交流を持ちたい、写真を始めてみたい、カメラを片手に出かけてみたいなど…クラブ活動を通して充実した学園生活を目指します。」をモットーにけやき写真倶楽部が誕生しました。

本格的な写真クラブ「フォト39会」の事務局長をされている木村さんが、シニア専修コース(文学歴史学科)に入学されたので、木村さんに部長をお願いして発足しました。

けやき写真倶楽部は、シニア専修コースや公開講座で学ぶ皆さん方を対象にした写真クラブです。四季折々の季節や各地の風物詩などを日帰り撮影で楽しめます。後日講評会において講師の指導を受けてスキルアップを目指します。撮影の基本だけではなく、撮影機材や携行品などのレクチャーも行います。

運用方法

1. 原則として、月に1回撮影会と講評会を行います。なお、講評会は、711号教室で部屋を真っ暗にした状態で、クラブ員が提出した写真一作品ごとに大スクリーンに表示して講評を行います。
2. 会費 1000円/月、3カ月分前納とします。



7月6日(金)発会式で挨拶される木村さん

なお、クラブ員の木村さんと十河さんがブログを作成されていますのでご覧ください。

木村 <http://blogs.yahoo.co.jp/photo39kimura>

十河 <http://blog.zaq.ne.jp/sogou/>

けやき写真倶楽部 中村米三郎

夏休み自主撮れ企画 学内撮影会

思わぬ被写体発見に一喜一憂

会場：園田学園女子大学キャンパス

日時：2012年8月8日

さっき言ったことを忘れてしまう世代ばかりの部員にとって、長期夏休みは禁物。

9月後半の部活開始までお休みとなると、せっかく取り組んだカメラいじりにブランクができそうと危惧したので、たえず定期的に写真に親しむ機会をと、暑い日であったが夏休み中にも拘わらず部員集合発令を出し、学内撮影会を実施。



わずか2時間ほどの撮影会であったが、暑さにもめげず食欲にシャッターを押す姿に10月の学園祭出展作品が多く出来そうだと確信する。撮影後、大学近くのレストランでランチをいただきながら親睦を深めた。



学内リゾート風に撮ればと白を基調に+補正で撮影。昼休み学生達がくつろいでいるイメージを持ちながらシャッターを切れば成功だ。

けやき写真倶楽部
木村さんのブログから

けやき写真倶楽部第1回撮影会

初々しい学外撮影会デビュー

- ・撮影会実施日：平成24年7月11日（水）
- ・天 気：曇り ・撮影地：鶴見緑地公園
- ・集 合：環状線京橋駅北口改札前 9:30
地下鉄鶴見緑地駅改札 10:00
- ・撮影時間：10:00～15:30 ・参加者数：13名

公園内を一周しての撮影会に皆さん最後まで歩かれ、少しは疲れたがでたようだが、初めての撮影会に最後までよく頑張られたと思う。

天候が心配であったが、最後まで曇り空の中での撮影会に終始したのはまずまずではなかったかと思う。初体験の撮影会が大雨だと今後の活動に影響が出るのではないかと心配したが天は最後まで味方をしてきていた。

打ち上げは、公園内のレストランでティーブレイク。和やかな雰囲気の中で談笑しながら「つながり」を持てたのではないだろうかと感じながら解散となった。



噴水の中で親子が水遊び。子供は服がびしょびしょになってもお構いなし。水遊びをする親子の触れ合いを描写できればと撮る。



水路の映り込みを撮ろうと狙っていたら、椅子に座ってる人の映り込みも気になりだし、そのまま撮る。近所の方々と思うが、時計の針がとまっているような空間に浸って居るようなシーン。

初めての作品講評会

スクリーンの映写作品に歓声

- ・実施日 平成24年7月13日（金）
- ・会 場 園田学園女子大学7号館711室
- ・時 間 午後1時～
- ・参加者数 18名
- ・提出作品数 各10点（第一回撮影会鶴見

緑地・学内撮影会・自由撮影）から初心者の写真集団が第一歩を踏み出し始めた。

鶴見緑地で初めての撮影会を終え、早速作品講評会を実施。どんな作品が出てくるのだろうかと期待と不安？が錯綜しながら講評会の準備を全員で進める。

暗幕を張る役、データをパソコンに取り入れる役、プロジェクターとパソコンのセッティングする役など、部員同士で協力しながら出来るのはクラブ活動ならではないか。

新しい学舎の教室を使用しての講評会は、部員の「つながり」をモットーについに幕を切った。



けやき写真倶楽部
木村さんのブログから

世界遺産の高野山へ学ぼう

～～遊ぼう～～夏休みだぁ～～

文学歴史学科3年 赤澤 佳寿子

霊験あらたかな聖地、高野山にある高野山大学松下黎明館で行われる高野山夏期大学へ、8月3日から2泊3日宿坊に身を置き参加してきました。歴史は遠く大正10年から始まり二度の戦争のため中止以外は続けられ毎日新聞社主催の今年第88回になります。オリンピックで熱い最中……私達は紫陽花が咲く涼しい山の中での三内見学も堪能。また霊宝館の夏季特別展において平清盛のドラマにもでてきた、血曼荼羅を見ることが出来ました。奥之院では弘法大師への朝6時の食事[御生身供]をも拝見。ことごとく初体験に合掌です。

興味深い講師は池上彰…小泉武夫…冷泉喜美子…角淳一…和泉雅子…松永有慶真言宗管長なかなか日ごろ聞けない内容でした。勿論写経も修めてきました。

毎年参加しても新しい発見があり楽しい時間を過ごしました。今回はもう一泊しようと高野山から南に下がったところに日本三美人の湯「龍神の湯」を発見。ヤッターーそれもホテルの名前が“美人亭”日高川のせせらぎを聴きつつ温泉だぁ。お肌しっとりつるつる女前五人衆の出来上がり。そこで満足しない学ぼう～～～～遊ぼう～～楽しむ精神！紙とエンピツさえあれば出来る俳句会をしました。その一部を紹介いたします。



有線の八月六日と旅の宿

送り火に今年もきつといくからね
ひまわりを見るたび貴方思い出す
雨蛙ずいぶん昔に出逢ったね

文学歴史学科3年 足立 信子

講義中うたたねの中苺ミルク

最後まで友と遊んだ盆踊り
朝顔に遊びに来る朝日かな
月明かり友と語らう釈迦分院

文学歴史学科3年 萩原 善恵

夏帽子嫌がる子等に母追っかけ

まっさらの浴衣に子等のおおはしゃぎ
夏木立奥の院へと石畳
十六夜庭に顔寄せ旅の宿

文学歴史学科3年 白井八枝子

蝉やかなかなかと高野山

土用過ぎほっと一息鰻かな
風呂上がりゆかたの君に恋心
龍神の湯に対面す夏の山

情報学科3年 富山 智子

蓮の花阿字観瞑想堂に座す

あの時は君とはぐれた遠花火
清盛の血曼荼羅指す館すずし
おお蜘蛛の行方知れずの一夜かな
露天風呂朝霧に会う美人亭

文学歴史学科3年 赤澤 佳寿子

進化の結晶

情報学科3年 橋本 育則

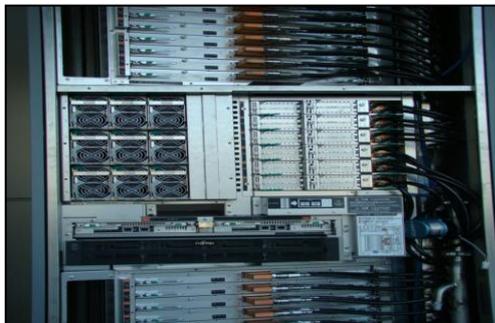
今年の夏、未来型都市神戸に新しい名物施設が誕生した。神戸ポートアイランドの一角に重厚な建物が聳えたちどおり、この中にスーパーコンピュータ「京」(略称 “スパコンK”) が設置されている。2009年の事業仕分で話題になった、例の「何故1位でなければ駄目なんですか」発言で開発事業が凍結するも、その後各分野の科学者達の猛反発で、予算が復活し、開発された代物。

名称の由来は一秒間に京(千兆の十倍)回の浮動小数点の計算ができることから命名された由。現在世界で最速の演算処理できるコンピュータとして注目を浴びている。スパコン「京」によって次世代の戦略的ものづくりや難度の研究・開発が飛躍的に伸びると期待されている。

歴史的にみると、1942年に演算処理のできる世界初のコンピュータが製作され、1952年にはIBMが世界初のプログラム内蔵式の商用大型コンピュータを発売している。この時期日本ではまだデジタルリレー式計算機の開発途上であった。

手先が器用で、頭の良い日本人は算盤と計算尺があれば殆どの仕事は処理できていたことが災いとなって開発が出遅れたかもしれない。

60年後、日本は見事に進化を遂げ世界一となったが、これから熾烈な競争が展開され、スパコンはさらに進化し続けるであろう。



写真は「京」の心臓部であるシステムラック(CPU、ICを搭載した筐体)の実物展示品です。システムラックは寸法:2000mm高さx750mm奥行x800mm幅、重量:一トン、メインルームには864台の筐体が設置されているとのこと。

嬉しい出会いの園田シニア学園

情報学科3年 F・Y

平成22年3月のある日、パソコンの先輩から「行きませんか」と云われ、何にも考えていなかったのです。家に帰り、主人に話すと、「行けば」と言われ、早速学園へ自転車で向かいましたが、1回目は西の方へ行き過ぎ、2回目は伊丹の交番所にはいり、道を聞くと「遠くまでこられましたネ」と云われ、道を教えていただき学園に着きました。

面接を受け、シニア専修コースの「情報学科」に入学しました。いくつになっても初体験は疲れます。

少しパソコンは知っているつもりでしたが、ソフト関係が多く、初めてのことが多かったです。

年をとると教室では解らないとすぐ「手を上げていました」これも解らない時は“聞くのが一番”の精神でした。

いつの間にかグループが出来、学習後は食堂でのお茶会、嬉しい出会いでした。

提出する課題が理解できなかった時、土曜日の日に教室で頑張っていると、「ケイタイ」が鳴り、「いまどこ」といわれ「学校」というと「今から行くわ」と助けていただきました。発表の日は休もうと思っていました。(1日ぐらい休んでも…?)でも助けて頂き、発表日は先生にほめていただき、大変うれしかったです。

いくつになってもほめ言葉は嬉しいものです。3年生になり、半年が過ぎ、来年は卒業です。みなさんに大変楽しい時間をいただいております。 楽しい日々……



山歩き 街道歩き 町歩き

文学歴史学科1年 橋本 秀明

この冊子を手に行っている皆様は、どの程度ウォーキングに関心がおありでしょうか。

昨今、健康のためとウォーキング流行りです。筆者の経験を述べると、全くその通り。60歳で定年退職時、体重は79kg。このままではいけないと毎日のように1～3時間のウォーキング

(当初6km/1時間)。1年半ほどで65kgに削減。今は毎日歩きませんが、65～67kgを維持。余談ですが、筆者の住んでいる尼崎市に「いきいき100万歩運動事業」があり65歳(介護保険強制加入)になると「貯筋手帳」がもらえます。日々歩いた歩数を記録(1日5万歩あるいても申請できる歩数は最高1万歩)。100万歩に達するとロゴマーク入りの帽子、1000万歩に達すると市長から景品と賞状がもらえる。筆者も昨年12月から記録を始め、11ヶ月掛けて200万歩越え。先は長いです。以降、色んな歩きについて筆者の経験を記します。

山歩き

20歳代は、社の人達また単独行で金剛山・葛城山・二上山・愛宕山・六甲山・大台ヶ原(～大杉谷)・白根三山(南アルプスの北岳・間ノ岳・農鳥岳)などごく限られた山を。

28歳の時、東京に転勤となり山から遠ざかる。40歳直前に社に設立されたハイキングクラブに入部。ハイキングといえ、殆ど山歩き(例会1回/月)。関東(東京・埼玉・栃木・群馬・山梨・神奈川・長野)の山々を日帰りまたは2日で。

例会とは別にクラブの仲間内で番外編として、毎夏4～6日かけて北アルプスの縦走。12回あり6回参加。思い出は多い。1例をひとつ。唐松岳山荘から祖母谷温泉(その先は黒部峡谷鉄道の樺平)に向かう途中で浮石に足をとられ斜面の日光キスゲの花畑へ飛び込み助からないのではと死ぬ思いをしたこと(樹木の枝を捕らえて凌いだ)。

定年退職後地元尼崎に戻り、暫く山とは縁がなくなったが、4年前からあるツアー会社の

ウォーキング(後述のツアーも同じ会社)に参加していて、その中に山行があり、それにも参加。3年前に熊野古道の小辺路縦走(登山)、2年前に中国山地の名峰大山、今年に入り、六甲山を取り巻く山・谷・沢・川のコースを8回、7月に北アルプス焼岳、10月には八ヶ岳の天狗岳を。今後とも山はツアーで参加。

上記とは別に、4年前、姉妹甥を連れて屋久島の縄文杉に会いに。

街道歩き

殆どツアーで。熊野古道の紀伊路中辺路、熊野街道(大阪八幡浜～和歌山布施屋)、京街道(山科～大阪高麗橋)、鳥羽街道作り道(京都羅城門跡～城南宮)、阪急電鉄主催の西国街道(伊丹～東向日)、現在次の二つ並行して参加。東高野街道・高野街道(八幡市の岩清水八幡宮～高野山)、鯖街道(京都出町柳～鞍馬・貴船経由福井小浜)。来年は熊野古道の中辺路の一部である雲取り越えを予定。これを実現することで日本海から太平洋を縦に歩く壮大なウォークとなります(あるツアーリーダーの計画)。

町歩き

これもツアーで。大阪シティウォーク、堺シティウォーク、岸和田シティウォーク、大阪国際空港一周ウォークなど、楽しいこと面白いことがいっぱい。今ツアー会社で人気のあるのが「大阪24区を歩く」。何れのコースも定員オーバーだとか。

以上簡単に記しましたが、ウォーククラブにも加入しています。次の二つ。

- ・毎日ウォーククラブ(会員制、毎日新聞主催、スタッフは関西歩け歩けNPO協会)
- ・尼崎シニアウォーキング(登録制、尼崎市所在で65歳以上が対象)

クラブに入っていると知らないところに行けて仲間が出来ます。

また、ツアー会社と付き合ううちにツアーリーダー・添乗員とも仲良くなり、ツアーに参加される方々とも知り合えて本当に良かったと思います。皆様も挑戦されては。

歩き遍路四万十の

人々の温かさに触れて

文学歴史学科1年 S. T

初めての四万十は、歩き遍路で一昨年12月足摺岬の38番金剛福寺への途中、中村駅前（四万十市）で一泊するためでした。

室戸から土佐湾沿いにひたすら歩き続けやつと辿りついたのですが、あまりの厳しさに諦めて帰ろうかと迷っていた時、中村のバスステーション前の切符売り場から、女の方がお盆に和菓子と御茶を持ってこられ「頑張ってください歩き遍路はお大師さんのお加護が2倍も3倍もありますよ」と温かい言葉とお接待を頂きました。

その後飲食料調達にコンビニに入ると店員さんに「車に気をつけて元気で歩いてください」と励まされ、宿ではスタッフの方が38番札所への道を懇切丁寧に説明してくださいました。

お接待、励ましのお言葉、親切な応対を次々としてくださった四万十の人々の温かさに萎えそうになっていた気持ちがいつの間にか消え、ここで止めたらアカン、お大師さんに会わず顔がないと思い直し、翌日から38番、39番（延光寺）と歩き土佐を無事打ち終えることができました。

その後、伊予、讃岐と一国参りで巡り、辛くなると四万十のことを思いだし昨年11月結願できました。今年3月には高野山へお礼参りに行き四万十市の発展と平和をお願いしてきました。

そして今また2回目の歩き遍路を区切り打ちで始めています。できることならエンドレスで続けたいのですが果たして？



室戸岬、室津港の夕暮れ



中村城跡に建てられた資料館



足摺岬に向かう四万十大橋



黒潮町、地元の人か遍路しか通らない熊井隧道

一年生の夏休み 「時間と空間」

情報学科1年 無名草子

シニア専修コース情報学科ピカピカの一年生！4月16日 緊張するなか、初めての授業科目は「基礎演習 I」。テーマはWord 左右も分からず「テキスト Word2007 完全マスターI」を開き、日々一喜一憂の格闘が始まりました。

ある時はピカピカの一年生、又ある時は錆びついた一年生。「MOS Word」?に挑み、七転び八起き、紆余曲折・四苦八苦 山あり谷ありの道半ば。6月6日(水)午前の授業終了後「かごの屋」にて初めてクラスの親睦会を開き、皆で気を引き締め励まし合い、気分を一新し、前期残りの必修科目「基礎演習 I」と「基礎情報前期」に取り組み前期を無事終了?しました。

前期終了とは名ばかり、私たち一年生は不安を抱えながら、他の諸先輩学生達と同様夏休みに入りました。

クラスの中から、少しでも不安を解消するには、“夏季休暇を最大限に生かし基本テキストの「Word2007 完全マスター I」を復習してはどうか”との提案があり、参加者の了承を得て、休暇中の毎週水曜日をパソコンの日とし、それぞれ得意分野を分担し、みんなが主役となることで、夏休みのパソコンとの取り組みが決まりました。

夏休み最初の水曜日7月18日午前10時に、大学の4Fパソコン教室に集合し「毎週水曜日はパソコンの日」を合言葉に、私たち夏休みのささやかな挑戦が始まりました。

7月18日 Word2007 完全マスター I 抜粋をテキストの作成に始まり、8月29日第二回親睦会を開催、8月12日に各自の名刺を作成し、私達の夏休みの小さな挑戦に終止符をうちました。(計8回)

夏休み≒Word×毎週水曜日+デザインアート÷ΣΩ?

● Word2007 完全マスターI 抜粋をテキスト

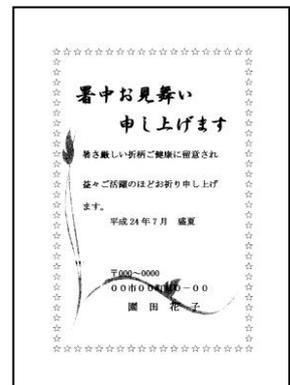
園田学園女子大学シニア専修コース (2012年4月入学)

40p	6	透かしの設定	ページの色の設定	
42p	7	ページ罫線の設定		
46p	9	ページ設定	サイズ 印刷の向き 余白	
76p23		スタイルの適用	表題・スタイルセット・配色	
77p24		書式のコピー	書式のコピー/貼り付け 文字の移動・コピー	
83p27		フォントの設定	フォントのサイズの設定	フォントの初期設定は「MS明朝」
83p28		フォントの色の設定	蛍光ペンの色の設定	
88p32		段落の配置	間隔の設定	● 日付・時刻の入力 ● 特殊記号の入力
99p38		文字列の移動	文字列のコピー	● 図形の描画 ● クリップアート ● 挨拶文 ● クイックアクセスツールバーの活用
118p49		文字列の折り返し	配置	
130p56		ワードアートを挿入	編集	
133p58		ドロップキャップの挿入		
137p59		テキストボックスの挿入		
156p70		文字列をリストに変更	表を文字列に変更	文字列を表に変更
163p72	・74	～80	表書き	表を編集する 線 点線 線の太さ 列と行
181p		差し込み印刷	レター 封筒 ラベル 葉書	住所録の作成

以上

● 暑中見舞いの作成

- ワードアートによる文字のデザイン
- 写真アートの取り入れ
- ページ罫線から絵柄のデザインを選び
- ☆印枠線を入れる
- 応用ポストカードの作成



- 図形の作成 各自思いのままに作成
(自由作画)

図形作成の応用
図形の塗りつぶし
図形の枠線 線の太さと点線
テキストの追加

- 園田学園女子大学への道
図形作成を駆使して地図の作成



- 名刺の作成
差し込み印刷の応用
各自自分の名刺を作成



「民謡」

国際文化学科3年 河野 通治

我が心の故郷（ふるさと）民謡、私が民謡に接し満5年になろうとしています。神戸シルバーカレッジ（KSC）へ入学と同時にKSC民謡同好会に入会、3年後KSC卒業生で組織されているKSCの民謡クラブに入会。（KSC卒業生で民謡同好会会員は自動的にKSC OBの民謡クラブに入会できる）又、2年前、日本郷土民謡協会公認、全関西郷土民謡協会所属団体「日本民謡あじさい会」中村海山会主に入門、現在に至る。

民謡というのは腹の底から大きな声を出して歌う歌なのでストレス解消にもなり、身体の健康にも非常に良いといわれている。又、民謡は日本の各地で庶民の間で歌い継がれてきたもので、楽曲に則りつくられたものではなく、拍子等多くが不規則なものとなっている。日本民謡は古くから人々の心の中にあり、どこか私達の心を強く打つものがあります。

民謡は音楽的に「手拍子と共に歌う歌」と「一人で歌う歌」の2つに分けられる。又、次のように分類される。

- 1) 仕事歌（労働歌）・・・ 斉太郎節
- 2) 祝い歌・祭り歌・・・ 黒田節
- 3) 踊り歌・・・ 大漁節、花笠節
- 4) 座興歌
- 5) 語り物や祝福芸の歌
- 6) 子守歌・・・ 五木の子守唄
- 7) わらべ歌

北は北海道・東北から南は九州・沖縄あたり迄、ゆっくりとしたテンポの歌、さびしい曲調の民謡、素朴な曲、陽気なものと、さまざまです。

民謡の多くは、農村から生まれ、ほとんどが踊りを伴い、農民の慰安としての意味合いを持っている。

初めての夏休み

情報学科1年 折本 洋子

私は、パソコンを一から習いなおそうと思い情報学科に入学しました。有難いことに初めて習うという方が二人もいらっしやいました。御蔭様で、土曜日にも授業が始まりました。土曜の先生から、「夏休みだからとこのまま何もしないでいると後期の授業が大変だよ。」と言われ、私たちは、継続して土曜日にも出席しました。「原稿もないとやりにくいだろうから」と、手本となる原稿を頂き頑張りました。

本当に有難いことでした。又、同期の糸井さんが、「1年先輩が6人になったと聞きましたよ、皆で2年に進みましょう。その為にも夏休みも自主勉強をしましょうよ。」と9月12日(水)まで率先して指導力を発揮して下さいました。御蔭様で色々なことを教わりました。

又、同期の野間さんから教えて頂きました。私たちは本当に恵まれているなあと実感しています。良き同期生に恵まれ先生方に恵まれて、充実した良き夏休みを送ることができました。鶴先生、糸井さん、野間さん、本当に有難うございました。

兵庫の城を訪ねて その3

と ま つ じょうせき 富 松 城 跡

情報学科2年 平田 好子



土塁の残る富松城跡 (北から)

- ・所在地 尼崎市富松町2丁目
- ・市バス 「富松城跡」



富松城の土塁と水堀跡

富松城跡は、約500年前の戦国時代の城館跡で、長享2年(1488)の史料にその名がみえます。永正4年(1507)から始まった室町幕府管領、細川氏の分裂抗争を発端とする戦乱が尼崎地域に及ぶと、西摂地域の重要拠点であった尼崎城・伊丹城・越水城(現西宮市)のほぼ中間地点に位置し、戦略上の要地である富松城は、その戦乱の主要な舞台の一つとなります。現在、城の西側の守りとして築かれた土塁の一部が、幅11メートル、高さ4メートルにわたり残されています。

これまでの発掘調査では土塁の内側(東側)にあたる場所で大規模な堀が見つかることから、富松城は土塁と二重の堀を備え、東西150メートル以上、南北200メートル以上の規模の城館であったと推定されます。

富松城の主なデータ

通称	東富松城
城郭構造	平城、館城
築城主	薬師寺氏か
築城年	長享元年(1487年)11月 (文献初見)以前
主な城主	薬師寺氏
廃城年	不明
遺構	土塁、水堀
指定文化財	尼崎市指定史跡

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

今まで富松城跡の近くに住んでいながら、よく知りませんでした。今回富松城の歴史を調べ、親しみが湧き、これからは富松の宝としてみんなで守って行かなければと思いました。

ちょっと思いつくままに

文学歴史学科 3年 小西 温代

七十才をすぎた私は、これから何をどうすればいいのか、老いと言う字が日々自分の目の前にぶらさがって来る感じられる。その時思いついたのが定時制高校に通ってみよう！来年の春には入学したい！と思いきからは色々な事を考える。

まず入学試験の日、入学願書の手配など、一応平成十八年四月に入学、十五才から上の色々な年の人達と一緒に、夕方六時から十時迄八科目の学科をこなさなければならぬ。

七十二才のかたくなった脳と身体には随分過酷な事だと思ったけれど、何とかなるもので四年間皆勤賞を受ける事が出来た。一年五回のテスト、国語の時間の度漢字十問テスト、体育祭、文化祭と年中行事もやりこなさなければならなかったが、それでも四年間は楽しく通学出来たように思いました。

修学旅行も北海道に三泊四日、若い子達と一緒にまっ白な雪に埋もれた中を、インストラクターについて一日歩き廻りました。勉強のことも忘れて思い切り楽しんで帰ってきました。

なぜ定時制に進学したのか、昭和十五年に尋常高等小学校に入学して二十一年の卒業までの六年間は戦争中、二十二年には6・3・3製の制度が出来て新制中学が設立され、中学としての校舎も、運動場もない小学校の残った校舎を仮校舎にしなから、二十三年には廃校になった中学校や女学校を市が買い上げて新制中学校の校舎になりました。



教科書も今の様な立派なのではなく、新聞の様に印刷されたのを自分達で綴じて作った様な時代でした。頁を間違えれば大変！教科書にならないでしょう、表紙も中身も同じなんです。

それでも学校という名の元に六年間は通ったのです。それから五十年余り過ぎてただなんとなく年を重ねるだけではいけないと思いき二度目の高校生になったのです。

卒業してそのまま家に居て老いてしまっただけは何もならないと思いき、色々考えた上で園田学園女子大学総合生涯学習センターに TEL して直接お聞きしたのが今私の通っている学校なのです。

来年は卒業の見込みです。ただ卒業が出来ると言うのではなく最後に思った事は何か身につく事があればと言う事です。

少し文章（自分史等）を書いて見たいので、文章の書き方綴り方などが習えたら今からでも遅くはないでしょう、又自分の望みがかなえられれば素晴らしいと思いき。

まなびやに 今日も通える 八十路かな



(筆者左)



文歴8期 伊丹文化財散歩

伊丹の住民より伊丹市と本日の予定を説明



伊丹市は

- ☆自然に恵まれ歴史文化の息づくまち
 - ☆清酒：戦国武将山中鹿之助の子孫が清酒造り・・・豪商「鴻池家」の始まりとなる。
 - ☆俳人 上島鬼貫の句碑が各所に見られる
 - ☆空港
 - ☆荒木村重と有岡城
- ランチバイキングのあとは文化財散歩に！



伊丹郷町・文化財散歩道マップもあります



東の芭蕉とならぶ鬼貫の句碑のある墨染寺



ホテルの前では盆踊り大会？の用意
酒造会社の倉庫の向こうにはホームセンターが時代ですね！



旧岡田家酒蔵

伊丹の酒造りの歴史を映像でも楽しめます



日本三大俳諧コレクションの一つ柿衛文庫や近代美術作品収蔵の市立美術館もあります。

前期最後の講義のあと文歴8期21名のメンバーがホテルへ集合、昼食後伊丹市文化財散歩に出発、墨染寺から柿衛文庫までのコースでしたが、酷暑を避けるため後期の元気な再会を誓って少し早めの解散となりました。(S. K)

「大阪・歴史の散歩道」

文学歴史学科 3年 水原 剛

爽やかな秋晴れのもと 文歴3年の仲間16人と歴史の散歩道を散策しました。集合のなんばから南海電車に乗り まずは住吉大社に向いました。神功皇后が三韓征伐の帰途、ご神託を受け211年に鎮座されたとか。反橋を渡り国宝の4つの神殿にお参りする。ご利益を受け 更には人気のパワースポット「おもかる石」にも触れ、願いを託しました。



住吉大社 反橋

今度は大阪で唯一 路面を走る阪堺電軌のチンチン電車に乗ります。窓外の風景に歓声を挙げていますと 終点の恵美須町に到着。目の前には創設100周年を迎えた通天閣が姿を現します。入口近くまで行き「昇りたい」の声を無視して東に歩けば 四天王寺の五重塔が見えてきました。何故かお寺なのに石造りの大鳥居をくぐり 西門から境内へ。何はさておき休憩所に直行し昼食を！あの太子様が593年に仏教伝来を・・・(略)。塔、金堂、講堂などが一列に並ぶ伽藍配置は四天王寺式と呼ばれています。

一息ついてから参拝ののち亀さんたちにも別れを告げ、今度は天王寺七坂の散策です。仲間の大阪市公認ガイド M氏の先導で出発しました。人気の七坂も「上るのがしんどい」と横目に眺めて通過します。途中の勝鬘院では“愛染かつら”に恋の成就を祈願してから 寺町をブラリブラリと北上しました。



勝鬘院 (愛染堂: 愛染かつらの木があります)

ついに最終の目的地 生國魂神社に到着。ここも凄く神武天皇が東征の折、石山崎(今の大阪城)に鎮座されたものを、秀吉が現在地に・・・(略)。境内はまるで神様のデパートのようにたくさんの神々に迎えられました。さすがに皆様もお疲れで、口数も減っています。お疲れ様、解散です。

その後、上六のハイハイタウンまで足を伸ばして反省会を開催。それでも帰りきれない人達は生ビール会へ。まずはAさんがグイ！！負けじとOさんもゴクリ！！それを見て怯えた男性陣はチビリ！！。聖徳太子から大阪の現況まで、幅広くとても楽しいトークも途中でタイムアップ。

また次回を楽しみに by e b y e.

平成24年10月13日



大学祭けやき祭が開催され、けやきコーラスが参加

けやき写真倶楽部は学生写真クラブと共同で参加しました

開催日：平成24年10月20日（土）・21日（日）

けやきコーラス

けやき写真倶楽部

学生写真クラブと共同写真展を実施

10月21日（日）13:00～13:30 開花亭

曲目：

20日（土）10:00～17:00

1. さあ うたいましょう 小山章三 詩・曲

21日（日）10:00～15:00

2. 野に咲く花のように

杉山政美作詞、小林亜星作曲

3. 小さな四季 源田俊一郎 編曲

春が来た 高野辰之作詞、岡野貞一作曲

こいのぼり 作詞・作曲者不詳

たなばたさま 権藤はなよ、林柳波作詞

下総皖一郎作曲

海 文部省唱歌

虫の声 文部省唱歌

冬の夜 文部省唱歌

どこかで春が 百田宗治作詞、草川 信作曲

4. ふるさと 文部省唱歌

5. もみじ 高野辰之作詞、岡野貞一作曲

○ 花は咲く 岩井俊二作詞、菅野よう子作曲



文・写真「けやき便り」編集クラブ

現役写真クラブとシニアの写真倶楽部が共同企画で、学園祭の写真展に参加する画期的な企画に戸惑いながら準備し本番当日を迎えた。

けやき写真倶楽部は、まだ発足して4カ月しか経っていない初心者集団が前代未聞と思われる写真展を無謀にも企画した。

そして、感性が全く違う現役学生とのコラボレーションも突拍子もないことだ。

しかしながら、両者の打ち合わせで全く違和感なく淡々と進められたのは不思議な展開で、目的がハッキリしておれば世代は越えられるものだと証明された。

学生写真クラブは模擬店でベビーカステラを販売し、買っていただいた方にスタンプカードを渡す。各展示会場を巡っていただきながら、それぞれの特徴のある展示会場を楽しんでいただく仕組みを考えた。

写真展会場では特製カレンダーやしおり、お菓子のプレゼント、そして来場者の記念撮影をして写真プレゼントなど多彩な企画で盛り上げる展示会場を考案した。

これが良かったのか大勢のお客さんが写真展へ来場され二日間忙しくさせてもらい充実した写真展であった。

今回の写真展を通じて知り得たことは、学びのなかに学問だけではなく、目標に向かって強い輪と大きな心の財産、そして貴重な思い出が作り得たことで、園田学園女子大学シニア専修コースに通える喜びが倍加したことだ。

準備日 10月19日(金)



女子大生と意気投合しながら順調よく進んでいく。



学生は壁面に展示し、シニアはイーゼルを組立て展示する。老若男女が目的を一つに固まった写真展なんて今までにないんじゃないか。

学生写真部は壁面の「静」、シニアはイーゼル展示で「動」をイメージした展示方法としたので、立体的で動きのある展示会場と化した。それって逆じゃないのって？若い人が「動」なんだがね。元気ハツラツ、口も達者なシニアだから仕方ないかな。



来場者を記念撮影した後、すぐにプリントアウトしプレゼントするパソコン部隊は重要な役割だ。情報学科の方やけやき編集部のシニア達が日頃のパソコン習練を發揮するまたとない機会となった。

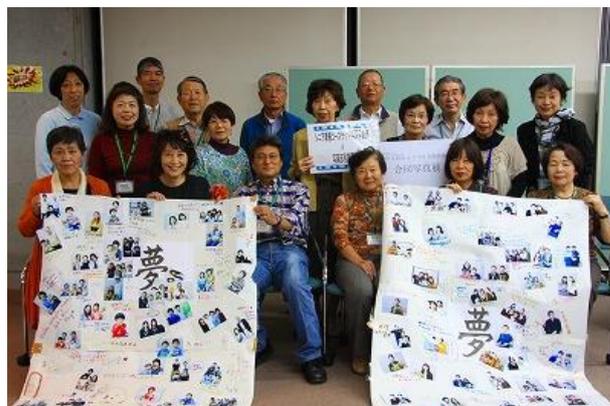
けやき祭当日 10月20日(土) 21日(日)



目の前までレフ板を当てられると、モデルらしくなってくるから不思議。撮ったデータを早速プリントアウトしてプレゼントしてもらえるから嬉しい。子供達にプリントアウトされる行程を見てもらえたのも良い体験をしてもらえたんじゃないかな。



カメラを向けると一斉にポーズをとる学生達。おじさん達はただカメラ方向を見てるだけ。



無事二日間の写真展も終え、皆さんから寄せられた「夢メッセージ」を掲げて記念写真。

皆さんお疲れさまでした。

けやき写真倶楽部

木村さんのブログより

風俗博物館（京都市）のご紹介

情報学科2年 宮本 裕江

月曜日の文学Ⅱ「源氏物語」の授業を、楽しみにして受講しています。夏休みに風俗博物館へ行きましたので、ご紹介したいと思います。



源氏物語の六條院『春の御殿 (はるのおとど)』を1/4スケールで再現し、明石姫君の裳着 (もぎ) や、草紙づくり、薫物 (たきもの) 合わせ〈「梅枝」〉、明石姫君の入内〈「藤裏葉」〉などの様子を、光源氏や紫の上、明石姫君などの登場人物の人形を配置することで、立体的に展示していました。



けやき便り6号の遠藤様の記事にでてきた「糸毛の車」や「檳榔毛の車」をミニチュアサイズで見ることができて、とてもうれしかったです。小人の国へ行ったガリバーの気分で、光源氏が暮らした六條院を探検することができ、平安時代にタイムスリップしたようなひとときでした。

当時を実物大に再現した部屋もあり、着物を羽織ったりして、写真撮影もできるということ。を、帰る時に、受付の方から教えてもらって、次に来たら、ぜひやってみたいと思いました。

JR京都駅から歩いて20分ぐらい。途中、東本願寺のお堀の蓮や睡蓮の花がきれいでした。

次に、場所等をHPより転載し、ご案内します。

開館時間 午前9:00～午後5:00

入館料 大人500円

休館日 日曜日／祝日／お盆(8月13日～17日)
／展示替期間(6月1日～6月30日、
12月1日～1月6日)



JR京都駅から市バス9番、西本願寺前下車徒歩約3分

阪急電車・四条大宮駅から市バス28番、西本願寺前下車

・烏丸駅で地下鉄烏丸線乗り換え五条駅下車徒歩約15分

京阪電車七条駅で市バス206番、七条堀川下車徒歩約6分

西本願寺の門前にあり、「井筒」という神職衣装の販売や時代衣装のレンタルをする会社が、自社ビルの5階のフロアに設けた私設博物館。



〒600-8468

京都市下京区新花屋町通堀川東入る
(井筒法衣店5階)

TEL (075) 342-5345

(事務局 TEL (075) 343-0001)

おやじ会

文学歴史学科 3年 志方 得雄

おやじ会も今年で10年目を迎える事になった。

このおやじ会、56歳で新しい会社に移った時、たまたま昼食の時隣り合わせに座ったのがご縁となり、2年先輩のHさんと30才近くはなれているT君と私の3人で飛鳥・奈良時代を語る間にいちど明日香や奈良近辺の史跡をまわろうということから始まり、会社を辞めた今でも続いている。

Hさんは、大学の先輩でもあり在学中は古美研のメンバーで、OBの仲間達と月1回の国宝めぐりと中国の史跡探訪をやっておられ、同好の友人がいるクラブに入られたと羨ましく感じている。

又、T君は大学時代に学芸員の資格をとり、歴史や仏像などかなり詳しいのでその都度教えてもらえることが多く、私の断片的な知識がつながり、有意義な実地講義を受けている感じである。

私の古代史は、黒岩重吾から始まり、その後松本清張、永井路子、杉本苑子の歴史小説から学んだことが多い。小説なのでどこまで史実と合っているのか疑わしいところもあるが、まあその知識を総動員して色々と空想するのがおもしろく、史跡を見るとその登場人物に歴史のロマンを感じる。

聖徳太子の生誕地や大化の改新の舞台となった明日香を自転車でまわった最初の企画が好評で、その後壬申の乱が起こった近江京もまわろうということになり滋賀県にもちょくちょくと行く事になった。

それが安土・長浜など司馬遼太郎を中心に読んだ戦国時代にも興味が広がるようになる。

そして一昨年は、熊野詣でを計画した。以前熊野古道を歩くツアーに参加し、熊野三山の内熊野本宮大社には詣でたので、熊野那智大社そして那智大社と一体してある西国三十三所観音霊場の第1番札所の青岸渡寺と新宮にある熊野速玉大社詣でをする事で、熊野三山詣でを完結するのが

今回の目的であった。

そしてもうひとつは、この熊野に行くのに日本最長の一般路線バスに乗ることであった。

このバスを知ったのは、NHKでこのバスを取材した番組をたまたま見たことがきっかけで、そのことをHさんに相談したら是非乗ろうという事から今回の企画が生まれた。

奈良交通が運行する八木駅（奈良県）から新宮駅（和歌山県）間の路線166キロ・停留所130カ所を約6時間半かけて山間コースを走るこのバスは、この地域に住んでいる方の生活の為のものであるけれども、私達のようにこのバスに乗りに行くだけのお客も結構多いとの事である。当日も私達のほかに2組ほど最初から最後まで乗られていたお客がいたが、バスに乗ってしばらくすると早々に「あなた達も乗りに来られたのですか。」と声をかけられた。

私達は、午前9時15分近鉄八木駅を出発し10時32分にJR五条駅到着、そして12時25分上野地に到着。ここで休憩する。

鉄線橋では日本で最大級といわれる長さ294メートル、高さ54メートルの谷瀬の吊り橋を半分ほど歩いたがよく揺れる。地元の人にはバイクも通るこの吊り橋、高いところが苦手な私にとってはやはり不安で途中でギブアップ。残念ながらもう一歩で渡ることができなかった。T君は、元氣に対岸の谷瀬集落まで往復し楽しんでいる。

再びバスに乗り、十津川村役場前に13時8分、十津川温泉には13時41分に到着、以前来たので見覚えのある熊野本宮大社と大鳥居前には14時18分、湯の峯温泉に14時29分、そして川の熊野古道と呼ばれる熊野川沿いを走って最終地新宮駅に15時39分予定通り到着した。通常の路線バスでありながら様々に変わる風景とちょっとひやひやすする山岳ドライブを楽しみながらの6時間半であった。ただトイレ休憩が少ないため用心して道中ほんの一口しかお茶を飲まなかったが、着いたときには喉がからからで一氣にペットボトルを飲み干してしまった。T君はバスに乗っている間、音楽を無理しながら聴い

ているようなので時々話しかけたりしたが、自然現象に苦戦している様子だった。前日から先に出発していたHさんとは紀伊勝浦駅で一緒になり、勝浦湾の小さな島にある今晩の宿に向けて船に乗った。

早速海辺に面した硫黄温泉の露天風呂にはいり、目の前の海や島そして波の音を聞きながら久々にゆっくりした気分となった。

翌朝8時前には熊野那智大社と那智山青岸渡寺に向けてホテルを出発した。大門坂でバスをおり、大きな杉の木立のなか苔むした石畳が続く熊野古道大門坂を五丁ほど登ると参道に出る。やっと那智大社だ。参拝後すぐそばの青岸渡寺にお参りし、納経帳にご朱印をいただき今日の記念にと思い、少し長めのお数珠を買うことにした。青岸渡寺三重の塔と遠目に見える那智の大滝を眺めたとき、46年前、高等部の級友HS君と初めて卒業直後に旅行したおり、丁度ここからこの景色をバックに写真を写したことを思い出した。

昼からは新宮に戻り熊野速玉大社に参拝をし、これで熊野三山詣でを完結することができた。帰り少し時間があつたので新宮生まれの文豪佐藤春夫の邸宅を見学した。佐藤春夫といえば谷崎潤一郎が妻千代の妹せい子と愛人関係にあつたため、千代夫人に同情した佐藤と三角関係になった谷崎は、せい子と一緒にたくて千代と鮎子（谷崎と千代の子）を佐藤に譲ることを一旦了承する。しかし約束は反故にされ、佐藤は谷崎と絶交する。これが小田原事件というらしいが、その後10年を経て谷崎は千代と離婚し、昭和20年48歳で千代は佐藤（56歳）と再婚した。この時発表した3人連名の声明文が話題となり細君譲渡事件として有名であるらしい。なお谷崎潤一郎の「痴人の愛」のモデルは千代の妹せい子といわれている。私は佐藤記念館に行くまでこんなことが二人の文豪の間にあつたとは全く知らなかった。最近瀬戸内寂聴がそのいきさつを書いた「つれなかりせば なかなか」があることを知ったので図書館で探してみようと思っている。

続いて浮島の森に立ち寄った。ここに「おいの伝説」がある事を知る。……『源平の時代、この辺りにおいのという美しい娘がおりました。ある日、父と共に浮島の森へ入ったおいのは、昼食のお弁当をたべようとして、箸を忘れてきた事に気づき、箸の代わりにするカシャバの枝を求めて森深く入っていきました。娘がなかなか戻って来ないのを心配した父が後を追って探しに出かけると、なんとおいのは大蛇に吞まれて蛇の穴に引きずり込まれようとしていました。父はそれを見て驚き、必死で助けようとしたのですが、大蛇はまたたく間に蛇の穴へと姿を消してしまい、二度と再び姿をみせることはありませんでした。』……この熊野の伝説

「おいの見たけりや 藪の沢へござれ おいの藪の沢の 蛇のがまへ」という俗謡が今も残っており上田秋成がこれをもとに高等部の時読んだ「雨月物語 蛇性の姪」を著したとは驚きでした。

さて雨月物語の冒頭の章に、大河ドラマ平清盛の前半のクライマックスとなった保元の乱で讃岐に配流となり怨霊となった崇徳院と西行との対決を描いた「白峯」がある。茨や蔓草に覆われた崇徳院の御陵にやってきた西行が、これが「新院の御陵なのか」とその荒廃ぶりに世の中のはかなさを思いながら御回向のため読経し歌を詠むと、「円位、円位」と呼ぶ瘦せ衰えた異形の崇徳院の霊が現れ、西行が問いかけるくだりがある。……

松山の浪のけしきはかはらじを

かたなく君はなりまさりけり

＜松山の海に寄せる波の様子は、今も昔も変わらないであろうに、この景色を眺めてお暮らしになった君は、ちょうど干潟が無くなったように、既にお亡くなりになって年と共に次第にその跡かたもなくなってしまわれた。＞

松山の浪にながれてこし船の

やがてむなしくなりにけるかな

＜松山の津へ浪に流されてきた船は、ふたたび都へ帰ることもなく、そのまま朽ち果ててしまった。そのような私も松山へ流されて、この地で

生涯を終えてしまった。口惜しいことだ。)

その声を聞いた西行は、崇徳院の亡霊であることがわかり地面にぬかずいて拝し、涙を流して言った。

「一体、保元のご謀反は、天照皇大神のご神勅の趣旨に違ふまいと思つて、思い立ちになられたのですか。それとも、御自身の私欲からご計画なされたのですか。さあ、詳しくおっしゃって下さい。」と申し上げた。すると、崇徳院は俄かに顔色を変えられて、「その方よく聞け。帝位は人間至上の位である。もし上に立つ天子から人道を乱す時は、天の命ずるところにしたがい、民の興望にこたえてこれを討つのが道である。

そもそも永治元年(1141)の昔何の罪もないのに、父鳥羽院の命によって、帝位を三歳の体仁(近衛天皇)に譲って退位したが、この心を見ても自分が人欲深いとはいへまい。その体仁が若死されては、わが子の重仁こそ当然天下を統治すべきものと、自分も世間も思っていたのに、美福門院(近衛天皇の母)の妬みに妨げられて、第四皇子の雅仁(後白河天皇、崇徳院の同母弟)に帝位を奪われたのは、まことに深い怨みではないか。重仁には国を治める才がある。雅仁にどれだけの器量があるというのだ。人の徳の有無をも見極めないで、皇位継承の事を後宮の後(美福門院)に相談してお決めになったのは、父帝(鳥羽院)のあやまちであった。しかしご存命中は、子としての孝行の誠を尽して、いささかも不満を顔色に出すことはなかったが、亡くなられた後は、いつまでもこのままでおられようかと、勇気を奮い起こして兵をあげることを決意したのである。まして国を治める資格と地位のある自分が、女の権力によって左右されるような政権にとって代わろうとするのに、何で道理にそむいたことだといえようか。」

(雨月物語評釈白峯より抜粋 鶉月 洋著 角川書店)・・・重なる恨みを語る崇徳院に対して仏法で理論的に反論する西行であったが、二人の問答は噛み合わないまま夜は更けて鳥の声が響き渡ると、崇徳院の霊は消えていくというお話である。

この夏休み私は、辻邦生の「西行花伝」、白洲正子の「西行」、嵐山光三郎の「西行と清盛」、元木泰雄の「保元平治の乱を読みなおす」を一気に読んだ。そして今角田文衛の「待賢門院璋子の生涯」を読み始めている。まだまだ理解は浅いが、崇徳院が西行に答えた皇位継承のくだりこそが保元の乱の根本原因ではないかと思う。

○崇徳院が鳥羽の子ではなく白河と待賢門院との密通の子という疑惑そして白河法皇崩御後の鳥羽上皇と崇徳天皇の確執

○美福門院に追いやられていく待賢門院の行く末

○佐藤義清の待賢門院への恋、出家の謎とその後の西行の動き

○凋落する撰関家と内紛

○源氏の分裂と平家の台頭

本を読むに従いこういったことに興味がどんどん広がっていく。

つい最近JR嵯峨野線花園駅前にある法金剛院を久々に訪れてみた。ここは、待賢門院が失意の晩年にすごしたお寺である。

来年はできればおやじ会で坂出市にある崇徳天皇白峯御陵を訪ね、ここで西行と崇徳院が問答した空気を感じてみたいと思っている。他の二人は賛同してくれるか少し心配であるが説得してみよう。

いつもタイムスケジュールを作ってくれるHさん、いつも解説してくれるT君、次のおやじ会もさらなるロマンを求めて行こう。

一期一会という言葉がある。その時その時のご縁が、細々とではあるが長続きするご縁になったことに感謝したいと思う。



谷崎潤一郎の文学作品は大衆文学か純文学か

国際文化学科3年 小村 良二

1

小説家にとってのアイデンティティーは、自著の小説に内包される大衆性や芸術性が重要な要素となる。したがって文学作品(以下、すべて小説を指す)は筋立てによって大衆文学と純文学に区分される。

大衆文学とは主題が大衆性に傾斜する文学作品を指摘し、“筋立ての面白さを追求して強い娯楽性を有する作品”と明瞭に定義付けられる。かつて、谷崎潤一郎は芥川龍之介と“小説の筋”論争を繰り広げた。当初この論争は、谷崎が「小説における興味とは構成や組み立ての面白さにある」などと述べて、当時の大衆文学の代表的作品であった中里介山著の『大菩薩峠(未完)』(1913(大正2)～)を絶賛した。これに対して芥川龍之介は自著『文芸的な、余りに文芸的な』(1927(昭和2)において、谷崎の文学作品を「筋立ての面白さのみが小説の価値ではない」と批判し、「小説にとってその構成や組み立てなどは第二義的なもの」と述べた。芥川による谷崎作品批判の真意がどこにあったのかは推測の域を出ないが、「筋立ての面白さ」などの言質をみる限りでは、芥川は上述した大衆文学の定義を念頭に置いていたと思われる。

一方、純文学は主題が芸術性に傾斜する文学作品であって、一般的な定義としては“小説家の豊かな表現力によって著述され、芸術的描写に富む作品”とされるが、“芸術的描写”という定義は抽象的で不明瞭である。しかし、純文学は人の人間性や人生観・死生観・自然観などに重きを置いた様々な名作を生み、文壇の中央に位置して近代日本文学の王道を歩んだ。

2

現代の文学界からは、多様な文学作品が連日のように提供される。しかしそれらの作品を、上述したような大衆文学と純文学に区分することには今日的な意味があるとは思えない。

かつて主として純文学礼賛論者からは、大衆文学と純文学の両者の境界には厳然とした“垣根”がある、と主張して純文学を純化していた。しかし今日では、文学作品の題材の多様化や文学的表現の多角化などが進み、文体の構成や組み立て方における国際化が深化したことなどによって、文学作品の区分は意味をなさなくなっている。したがって両者の境界のいわゆる“垣根”は取り払われたといえるが、その直接の契機は1960(昭和35)年前後に社会派推理小説が登場したことによる。松本清張や水上勉らによる社会派推理小説は大衆文学として位置付けるには異質の高度な文学的力量を備えており、彼らの小説に描写された人の人生観や死生観などは長く純文学がその文体中に重きを置いてきた人間性に相通じるものがあつたからである。

今日、直木賞受賞作品はその年の大衆文学の代表的作品とされるが、その作品が必ずしも大衆文学を代表しているとは断定できない。純文学の最高峰とされる芥川賞受賞作品も同様で、その作品が必ずしも純文学を代表する文学作品であるとは限らない。けだしその事由とは、当該文学賞に推薦された複数の文学作品は本来の文学的評価のみならず、授賞選考過程の裏側に見え隠れする商業主義との両者の微妙な均衡の上に置かれており、その時々両者のどちらかの軽重差によって授賞が決定されるとみられるからである。

3

谷崎潤一郎は早くから大衆文化に強い関心を示しており、1920(大正9)年頃は大日本映画研究会顧問に就任してシナリオを執筆したり、1928(昭和3)～1929(昭和4)年頃は三味線に懲り、文楽にも惹かれていた。谷崎の文学作品には、大衆文学が好んでモチーフとする男女の倒錯した愛欲や肉欲の表現がしばしば描写される。このため、谷崎には“享楽主義者”とか“耽美主義者”などのレッテルが貼られた。『卍』や『蓼喰う虫』(ともに1929(昭和4)・『春琴抄』(1933(昭和8)・『少将滋幹の母』(1949(昭和24)・『鍵』1956(昭和31)などの諸作品には性や猥褻な描写が内包され、各々の作品に係る表現の芸術性について論争の種となった。また、『細雪』(1946(昭和21)～1948(昭和23)はその執筆当初、谷崎の念頭に置かれていたのは芦屋市(兵庫県)の芦屋マダム(有閑夫人)の不倫を描写することであったといわれている。

したがって谷崎の文学作品はその筋立てや執筆の経緯をみる限り、従来通りの区分に従えば大衆文学に位置付けることがふさわしい。第1節に既述したように、かつて谷崎は芥川龍之介と“小説の筋”論争を繰り広げて大衆文学を絶賛したが、この事実も谷崎の文学に対する姿勢の現れとみることができる。しかしながら、谷崎の文学作品に登場する男女の愛欲や肉欲の表現は興味本位の描写ではなく、作品全体が豊かな表現力によって貫かれており、人間の多面的な人生観や死生観を追求して優れた純文学になっている。

4

今日の文学界にあつては多数の文学賞が存在するが、そのなかでも直木賞と芥川賞は特別の存在である。第2節に既述したように、この二大文学賞は文学作品を大衆文学と純文学に明確に区分するが、それは文学作品の区分がなされてこそ当該文学賞の権威が生かされるからにはほかならない。

近代日本文学が誕生して以降、大衆文学と純文学の両者の境界には乗り越え難い“垣根”が立ちはだかるとされていた。しかし、多様な文学作品が提供される昨今にあつては文学作品を区分することに特別の意味はなく、両者の境界のいわゆる垣根は取り払われたといえる。その直接の契機は1960(昭和35)年前後に社会派推理小説が登場したことによるが、文豪谷崎潤一郎の文学作品こそが両者の境界の垣根を乗り越えた先駆的文学であるといえよう。

【お願い】：本稿について、皆様からのご意見をお聞かせ下さい。

特に、文学歴史学科の皆様からのご意見をお願いします。ご意見は、1号館1階にある総合生涯学習センターに設置してある「けやき便り」投稿箱をお願いします。



谷崎潤一郎記念館 芦屋市



「細雪」の碑 芦屋市

アンケート結果から

「けやき編集」クラブ部員

園田のシニア専修コースを選んだ動機は千差万別であるが、その中の興味あるものを選んでいる人が圧倒的に多いのは理解できます。

学園での歓談やおしゃべりで過ごす人が大部分であるが、クラブ活動を行っている人も1割程度居られるのは注目に値します。

「けやき便り」は「時々読む人も含めると、約9割の人に読まれていることは嬉しく思います。ほしい記事「ある」という人の要望に応えていく努力が必要と思います。

(F. Y)

150以上の回答を頂き感謝です。専修生と先生方からのメッセージが興味ある過半数との結果から、一層皆様への投稿依頼に力が入る次第です。

有料化の件も約7割の方のご理解を頂き、ご希望の記事や場所を伺っての取材・編集に意欲をかき立てられています。

入学10年目以上の方が居られることには大変感銘を受け、まだまだ先は長いと希望が湧きました。

(R. I)

歴史探訪、史跡廻り、散歩、ハイキング、・・・新しいクラブが増えるといいですね。園田でいろんな方とつながれば、新しい何かが生まれるかも・・・と、期待がふくらみます。皆様方のご意見からも「けやき便り」の可能性が、一層感じられましたので、ぜひ一度編集クラブをのぞいてみてください。

(H. M)

「必ず読む、時々読む」で91%の多くの方にお読み頂いています。また、「100円、希望者のみ」有料化で68%の方に了解を得ています。編集クラブ員の経済的負担はかなり大きいので、「けやき便り」を継続的に発行するためには、有料化をお願いしたいと考えています。

(Y. N)

「なぜ園田のシニア専修コースを選ばれたのですか？」との質問で、ビックリしたことは他の生涯学習講座を修了したのだという方が、さらにまた勉強をするために園田に来られているという方が多かった事です。

私も園田シニア専修コースに入学してこんなにも勉強することの楽しさ、驚き、感激を得られるとは思っていませんでした。

私も諸先輩にならって生涯、勉強をして行きたいと思いました。

(Y. H)

取り上げてほしい記事の項目で「近松の記事」という希望がありました。

個人的に「近松応援団」に参加していることもあり、ご縁あって尼崎で学んでおられる皆様に「近松」をもっともっと知っていただけるような記事を取り上げていければと思います。

(N. A)

今回のアンケートにたくさんの方にご協力いただき有難うございました。

今後の「けやき便り」の発行に皆様方のご意見、お考えなどをこれからの課題とさせていただきたいと思います。

又、皆様もこれからの目標（クラブ活動など）の参考にしていただければ幸いに思います。

(K. O)

「けやき便り」の投稿について

1. 「けやき便り」は、原則として「MS明朝体」「12ポイント」のフォントを使います。

(もし上記と異なる場合はご相談ください。)

2. 原稿について

① 原稿用紙で頂く場合

市販の400字づめ原稿用紙をお使いいただくか、またはメモ用紙に記入して頂いても結構です。また、当クラブも専用の400字づめ原稿用紙を用意していますので、必要な方は、お申し出下さい。

② パソコンでプリントされた場合

プリントされた用紙をそのままご提出下さい。できれば、画像が含まれている文書を投稿される時は、ファイルのまま頂くと非常に有難いです。その場合、提出方法は、編集クラブ員にご相談下さい。

3. 次の内容を含む投稿はお断りします。

① 宗教・政治に関するもの

② 公序良俗に反するもの

③ 一般常識の範囲を大きく逸脱していて、「けやき便り」編集グループが、掲載することを不可と判断したもの

4. 原稿は、止むを得ない場合に限り、変更・修正をすることがありますのでご了承ください。

① 紙面のレイアウトを整えるため

② 編集グループで気がついた明らかな誤記や不適切な表現を避けるため

5. 頂いた原稿は、編集およびページ数の関係上、最新号に掲載できない場合があります。

また、原稿は返却いたしかねますので、ご了承ください。

6. 投稿される方は極力お名前を書いておりますようお願いいたします。無名・匿名・ペンネーム等はご遠慮ください。

7. 画像を掲載する時、カラー画像を頂いても、紙面には印刷に適した色に変換して掲載しますのでご了承ください。

8. 投稿は1号館1階にある総合生涯学習センターに設置してある「けやき便り」投稿箱にお願いいたします。



編集後記

今回特にたくさんの方より原稿をいただきバラエティに富んだ内容で発刊できましたのは、皆様のおかげと感謝しています。

また初めての試みとして皆様方にアンケートをお願いしたところ、150名以上の回答をいただき学園や講義それに仲間に対する皆様方の思いを知らされたようで、今以上に充実した楽しい学園生活を過ごせる可能性も大と意を強くした次第です。

具体的には、より充実した学園生活を過ごすための思いや、身近な提案や同好の仲間探しによってより大きな輪になっていく手助けに「けやき便り」がなれば素晴らしいことだと思います。

今後は発信と共に応援も出来れば理想なのですが、力量はまだまだです。今後とも応援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

「けやき便り」編集クラブ 木下 俊造